

# 立雲寺だより

vol. 06

令和4/夏

血縁



## 施餓鬼

### について

**最** 近「お先にどうぞ」と言っただのはいつでしようか。すぐにはいつとも思いつく人や、言っていないくてもそのような気持ちで日頃過している方は、これからご紹介する仏教説話を既にご存知かもしれません。来たるお盆の法要は、盂蘭盆会と合わせて施餓鬼供養を行います。今回は「施餓鬼供養と施し」について仏教説話をもとに考えてみましょう。

ある時、男が餓鬼界と菩薩界をのぞきに行くことになりました。男はまず餓鬼界の時刻で、餓鬼界の食事はどんなひどいものが出てくるのだろうと食卓を見ると、なんと豪華な食事が並んでいるのです。しかし餓鬼界の住人はガリガリにやせ細っています。これはどうしたものか。と男は注意深く見ると、餓鬼界の住人達は三尺三寸（1メートル程）の長い箸を持っており、誰一人自分の口にご馳走を運ぶことができないのでした。次に



〒050-0086  
北海道室蘭市大沢町 2-4-1

TEL (0143)44-4306  
MAIL ritsuunji@gmail.com

立雲寺公式サイト



菩薩界をのぞきに行きました。菩薩界も食事の時刻でした。驚くことに菩薩界の住人も餓鬼界同様、豪華な食事を前に三尺三寸の箸を持っています。しかし菩薩界の住人は長い箸を使い、朗らかに目の前の人とご飯を食べさせ合っているのです。

これは因果応報の道理です。餓鬼界の住人は「他人よりも自分を優先した」結果であり、逆に菩薩界の住人は「お先にどうぞ」と食べさせ合って皆が食事ができた、というわけです。

施餓鬼供養は「餓鬼に施しをする」と書く通り、餓鬼界に落ちた精霊を供養する法要です。いつもお腹を空かせて彷徨っている精霊です。要因は、生前に私利私欲ばかりに夢中で他人への「施し」をしてこなかった事にあるとされています。

他人への施しによって、回り回って我が身も助けられる。またそのような気持ちで仏様に手を合わせる事で、ご先祖様や家族、周りの人達だけでなく、他人を思う事に繋がる事でしょう。

お盆の法要は、先祖供養はもちろん、災害や戦争で失われた命や、餓鬼界に落ちてしまった精霊等、全ての精霊に供養を施す気持ちが大切です。皆さまのご参拜で、全ての精霊が救われますように。

## 夏号もくじ

- 1 施餓鬼について
- 2 立雲寺のお盆期間 灯ろう流し
- 3 行事予定・報告(6~9月)
- 4 立雲寺よりご報告 期間限定御首題 教室案内 学びの時間 春夏秋冬

令和4年  
8.16(火)

行脚  
17:30 発

13:00~ 立雲寺本堂  
盂蘭盆会法要

19:00~イタンキ漁港  
灯ろう流し



# 立雲寺お盆期間

お盆はご先祖さまの魂があの世界からこの世に帰ってくる期間です。ご先祖様を迎える準備をしましょう。初盆を迎える方へは、別紙にて詳しく「初盆の迎え方」をお送りしています。



## お棚経

(8/1~8/12)

ご自宅のお仏壇に僧侶がお経をおあげします。お仏壇を飾り、お供えしご先祖様をお迎えいたしましょう。

1

## 骨段・お墓参り

(8/13~8/16)

お墓・納骨堂に供花・お供物を供えお参りしましょう。僧侶がお経をあげます。

2

## 盂蘭盆会法要

(8/16 13時~)

本堂にてご先祖様をはじめ全ての精霊に供養と感謝の気持ちを込め法要を行います。

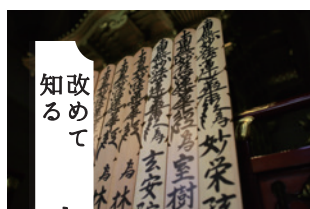
3

## 灯ろう流し

(8/16 19時~)

立雲寺からイタンキ漁港まで行脚し、灯ろうを海に流し、ご先祖様をはじめ全ての精霊をお送りします。

4



知る改めて

### 卒塔婆

#### 亡き人への手紙

卒塔婆は亡き方へ自分の供養の気持ちを表す「手紙」のようなものです。法華経の中では「皆、塔婆を建てて供養すべし」と説かれ、日蓮聖人もお手紙の中で「南無妙法蓮華経と書かれた卒塔婆を建てることにより、計り知れない功德を得ることができるのです。」と功德の大きさを説いています。お盆は卒塔婆を建て、供養の気持ちを表す大切な行事です。亡き人の為に。これまで命を紡いできてくれた先祖の為に。癒しをくれたペットの為に。そして自分も徳を積む事ができる。僧侶はお経とともに皆さまのそんな気持ちを、亡き人やご先祖様、全ての精霊に心を込めて届けるのです。



知る改めて

### 水塔婆

#### ご自宅の仏壇に

お盆期間に先祖代々、故人の戒名を書き入れて供養する小さいお塔婆。川に流したり水向供養として水に入れることから水塔婆と呼ばれます。立雲寺では灯ろう流しの際にお焚き上げしています。戒名・先祖代々・水子一切・ペットの名前等を書き入れ、水を入れたコップに立て、お盆の間ご自宅のお仏壇、または各家お骨段にお祀りし、16日の法要までに当寺へお持ち下さい。



知る改めて

### 灯ろう流し

「供養灯ろう」  
一基 2,000円

#### 祈りと約束を灯ろうに込めて

灯ろうに先祖代々・戒名・水子一切・ペットの名前等を書き入れ、供養と感謝の気持ちを込めて「また我々を見守ってくださいね。」と精霊をお送りします。またご先祖様だけでなく、多くの精霊が救われるよう祈るものです。立雲寺では、16日13時からの盂蘭盆会大法要にて灯ろうをお祀りし、供養をします。その後17時半にお寺を出発し「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えうちわ太鼓を叩きながら行脚をし、19時頃よりイタンキ漁港にて灯ろうを流し供養いたします。

今年より

灯ろう流しに新しい要素が加わります

#### ① 願い灯ろう作り

一基 1,000円

16日 15:00~18:30  
(現地にて受付)



自身で先祖供養、願いや目標、感謝の意…等「自身の思い」を書き込み、祈りを込めてご先祖様に報告・約束をする灯ろうです。

#### ② 飲食店

出店時間 16日 15:00~19:00

#### 出店店舗

無水カレー・スムージー・焼き鳥・ブレンドコーヒー・ホットドッグ・お粥・薬膳茶…等  
4店舗出店予定です。

#### 出店お食事割引券



檀信徒限定でイタンキ漁港に出店する飲食店で使える割引券 300円分を同封します。(当日使用限定・再発行はできません)



# 予定

七月〜九月



# 報告

六月〜七月

## 六月十二日 鬼子母神祭

法華経の守護神・安産・子育ての神様として篤く信仰されている鬼子母神様の大祭でした。立雲寺では年に一度の鬼子母神祭で、ご祈禱の結界である天符を新しいものにしします。

【年中特別祈願】「取子祈願」の方は、特別加持祈禱をさせていただきました。また毎日のお勤めの際に名前をお読み上げし、祈願成就を祈っております。

皆さまが心身共に健康で日々平穩に過ごせるよう、また子どもがすくすく育つことを共に祈っていきましょう。ご参拝ありがとうございました。

## 七月二十一日 写経会

初心者の方も気軽に始められる写経です。写経後に「納経御首題」をお渡しします。

## 九月十三日 馬頭祭・十三日講

動物霊を救い、交通安全の神様である馬頭観世音菩薩の大祭。十三日講と合わせて行います。

## 九月二十三日 秋彼岸法要

此岸（我々の生きる世界）から彼岸（心の浄土）へ到達するため自ら修行・精進を重ね、先祖供養を通してご先祖様への報恩感謝を表す仏道修行の期間です。（九月二十日〜二十六日）

## 永代供養墓

## ペット供養墓

## ペット納骨堂

## 檀信徒多目的広間

建設予定です。

## 永代供養墓

昨今の核家族化や家族の在り方の多様化に伴い、お墓や供養の仕方も様々な形が増えました。立雲寺の従来よりある「永代供養墓」は、お墓の納骨室も一杯になってまいりました。そこで新しい「永代供養墓」を建立予定です。

永代供養とは、お墓・納骨堂をみていく事が難しい方に、お寺が代わりに永代に渡り供養していくものです。永代供養の仕方も皆様のご事情に合わせられるような形をいくつかご用意する予定です。

## ペット供養墓・ペット納骨堂

かねてよりペットの供養を行っておりましたが、ペットは今も昔も変わらず人間と共にあり家族と同等の存在です。ペットの供養をしっかりとりたい、という声を多くお聞きします。そこで「ペット供養墓（合祀型）」と「ペット納骨堂（個別型）」を建立したいと思っております。

## 檀信徒多目的広間

法事控室や家族葬、行事の休憩室、お参りに来た際の談話や僧侶への相談、地域行事の会場：等、檀信徒の皆様が多目的に使える広間を建設したいと考えております。こんな時代だからこそ、人との繋がりが生まれる空間にしたいと思っております。



## 立雲寺オンライン授与所

開設しました。

様々なご事情でお寺にご参拝できない方が、立雲寺とのご縁を感じ、手を合わせることができるよう、御朱印・御首題の郵送対応が可能な「立雲寺オンライン授与所」を開設致しました。

下記 QR コード、又は立雲寺ウェブサイトよりアクセスできます。



## 限定御朱印

※書き置きのみ。枚数に限りがあります。

## 8月限定

## 「お盆切り絵御首題」

頒布期間 8/1〜8/31 志納金 1,200円

切り絵で、お盆の風物詩である鬼灯・精霊馬・灯ろう流しをデザインしました。書き置きのみ頒布になります。



※真ん中のお題目のみ手書きです。

**立** 雲寺の本堂で檀家さんの法事を勤めた時のお話。参列者に前に出てご焼香をしていただいている。五、六歳位の子供とその母親が、二人で会釈をした後、その子は焼香している母親をじっと見つめていた。子供の番になり、お香に手を伸ばしながらも、不安げに何度も振り返り、その度に二、三步下がって見守っている母親は「うん。うん。」と頷いている。焼香が終わり二人で深々と頭を下げる時には、緊張していた顔がやりきった安堵の表情に変わっていた。ほんの数秒間の光景だが、とても心に残った。

**学びの時間**

第6回

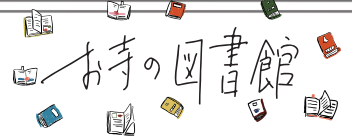
**「母親」**

文・林永清

林永清 (はやし・えいしん) / 立雲寺副住職。  
令和3年5月より「立雲寺だより」にて一口法話「学びの時間」を連載開始。

記事の後、ふと随分前の新聞記事の話を思い出した。還暦になる男性の話だ。誕生日の朝、母のお墓参りに行ったという。六十年前の今日、母が自分をこの世に産み出す為に命をかけてくれた。そして六十年後の今日、こうして子供達にお祝いしてもらい、こんなに嬉しい事はない。母への感謝と自分の人生の報告をしました。という内容だった。私はハッとしました。今まで自分が一人で大きくなった気でいたのかもしれない。だが母親というものとは、いつの時も後ろからずっと見守ってくれているに違いない。亡くなった今も。

**春夏秋冬** 以前に一部公開を観に行った「モルセラニの霧の中」を全編観てきました。モノクロとカラーでおりなす室蘭の情景、過ぎゆく人生、変わりゆくモノと変わらないモノ、ノスタルジックな映像で表現され、見慣れている街並みや風景が別世界のように映し出されています。本当に大切なものは身近にあり、人々の心の中につなげていくのだから、と改めて感じました。自分は何をつなぎ、後の人に手渡していく事ができるのだろうか？日々の忙しさから、少し足を止めて室蘭の風を受け、深呼吸したくなりました。(恵)



**今季の一冊**



『死の講義』  
橋爪大三郎 著  
/ダイヤモンド社

人は死んだらどうなるのか。世界の各宗教各宗派は「死」をどう考えるのか。人の数だけその答えはあると思います。日蓮聖人は「まずは臨終の事を習い、後に他事を習いなさい。」と仰っています。必ず来る「死」を学び、考えることは、今をどう生きるかに繋がるのだと思います。(光汰)

**教室案内**

**調 寺ヨガ guna** 講師 林南歩  
TEL 080-9610-1030

<b>朝ヨガ</b> 第2・4日曜日 8:45～(60分)	<b>昼ヨガ</b> 第1・3金曜日 10:30～(60分)	<b>夜ヨガ</b> 毎週木曜日 18:45～(60分)
-------------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------

※お寺の都合で変更・中止することがあります。

講師 林香織  
TEL 090-5079-0747

**公文書写教室**

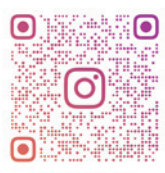
〈学べる教科〉 **ペン習字** **かきかた** **筆ペン** **毛筆**

9月【1日無料体験学習実施】  
(最大3回まで体験可)

**9月** 12日/19日/26日(月) 17:00～20:00  
13日/20日/27日(火) 14:00～19:00  
※体験希望の方は事前にお問い合わせ下さい。

**写 写経会** 7/22(金) 13:00～15:00  
如来神力品第二十一  
参加費 1,000円  
持ち物 特になし  
予約方法 電話・メール・LINE  
インスタにて受付。

立雲寺 Instagram



RITSUUNJI

立雲寺 LINE 公式アカウント



@183iejasa

様々など相談を  
随時受け付けて  
おります。  
お気軽にメッ  
セージください。